

令和4年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時：令和5年3月1日(水) 15:30~17:00

場所：本校校長室

出席委員：久会長、川添副会長、大里委員、阿部委員、森戸委員、大松澤委員

事務局出席：校長、事務部長、教頭等5人

1. 学校長挨拶
2. 会長挨拶
3. 報告

令和4年度学校説明会実施状況について

→昨年度は2回実施したが、今年度は1回増やして、3回実施した。12月の学校説明会は本校では初めての実施であったが、盛況であった。今年は、自治会の生徒から本校の行事等について説明をした。また食堂体験も実施したが、アンケート結果ではどちらも好評であった。1月の学校説明会では、創立80周年記念事業で購入したホワイトボードやプロジェクターのお披露目も兼ねて、自治会生徒による施設案内を実施した。いずれも好評だったため、来年度はより改善しながら実施する予定である。

4. 協議

1) 令和4年度学校経営計画について

○令和4年度学校教育自己診断教員向けアンケートの「本校のこれまでの進路実績に満足している」という項目の評価が低いことについて。

- ・国公立大学を重視するのであれば、それなりの指導をすべきである。
- ・多様な入試制度に着眼し、対応策を考えていくべきである。

○行事の満足度について

- ・大学でも二極化が進んでおり、「一緒に頑張ろう」という生徒と「この状況でいい」と妥協する生徒で分かれている。この妥協する生徒というのは常に2割ほどいるわけで、その中で満足度を90%以上取ることはきびしい。

○遅刻が多いことについて

- ・コロナの有無にかかわらず、メンタルが弱い人が増えてきているのではないか。
- ・以前は、意図的にさぼっている生徒が多かったが、最近は中高大とも「行きたいけど行けない」生徒学生が増えている。

→遅刻をする生徒の数が大幅に増えているが、それはコロナの影響のためか、もしくは不登校の生徒が増えている可能性もある。

→スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに相談する数が急増した。心の問題でつまずく生徒が多かったようである。

○観点別評価について

→先生方は苦勞しながら評価を行っている。

- 中学校も同じ状況である。
- VOD 型学習を行っているのであれば、それと実際の授業を組み合わせることによって、生徒や先生の満足度を上げていくこともできるのでは。
- 大学ではオンデマンド型授業を教員同士で互いに見合うことがある。そうすると互いのスライドの作り方やしゃべり方を見ることができて、とても勉強になる。高校では授業見学に行く教員の数が少ないとのことだが、互いの授業を録画して、後でお互いに見たり研修に使ってみたりしてはどうか。

○令和4年度学校教育自己診断教員向けアンケートの「生徒の興味・関心、適正・進路に応じて選べる選択科目が多い」という項目の評価が低いことについて。

- 生徒に対して、「楽しい授業だけでいいの?」「しっかり実力を身に付けてほしい」というメッセージは届いているのか?来年度から示されるスクールポリシーから、どのような生徒にどのような能力を身に付けさせるのか、そのためにはどのようなカリキュラムを作成したらよいかという点から考えていくべき。
- 大学でも10年も同じ授業をしていると、カリキュラムがマンネリ化する。そのようなときには、皆に「自分でカリキュラムをたてましょう。ずれているなら新しいポリシーを作りましょう」と呼びかけて、うまくいったことがある。上から押し付けられるのは良くない。

○探究の発表について

- 表面上の活動レポートで終わってしまう学校が多い。どうしてそのような状況になるのか、統計データや地理的なもの、時代等のデータサイエンスに基づいて深めていく必要があるのではないか。
- 毎年、1年生が司馬遼太郎記念館を訪問しているが、今年の事前学習は司馬遼太郎さん自身やその著書等について、かなり掘り下げて調べ学習および発表を行うことができた。

○図書館の利用状況について

- 利用状況はあまり芳しくない。今年度、8回ほど図書館だよりを発行したが、なかなか利用状況が改善しない。
- 現代では、図書館で本を学ぶよりもAIのほうですぐに回答を得てしまう傾向がある。その中で「皆さんはAIに負けていていいのか。どうやったら勝てるのか考えていこう」という問いかけが大事なのではないか。

○校務の効率化について

- 今年から朝の遅刻連絡については、電話ではなくさくら連絡網の使用を徹底している。もちろん教員の勤務時間からは電話連絡を受けている。
- 施設予約については、今までは紙ベースで行っていたが、クラスルームのスプレッドシートで共有することにした。

○スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の利用頻度について。

→今年度は、本校ではSCは年間15回ほど来ていただいた。月に1～2回ほどである。生徒と保護者、学級担任からの相談予約でいっぱいだった。

→SSWは今年度からお願いしており6回来ていただいた。来年は増やしていただく予定である。

- 大学には臨床心理センターを持っている所も多い。そういった所へ相談をもちかけてみるのもどうか。
- 中学校ではSCは週に1回ほど来ていただいている。

→SSWの効果としては、子ども家庭センターとのつなぎをしていただいたことが挙げられる。

○ICT関連の進捗状況について

→本校では今年度から情報部が立ち上がった。教員と生徒へのパソコン貸与やアカウント管理から便利なソフト等ツールの使い方など多岐にわたる働きをしていただいている。

2) 令和5年度学校経営計画について

校長より説明がなされ、了承された。